◇ 模擬講義のテーマ ◇
「障がいをもつアスリートのスポーツ参加について」

◇《設問１》（模擬講義の要点整理）の解答例 ◇

スポーツにおいて、障がいをもつアスリートが健常者と競う場合に公平性が問われることがある。講義の裁判では、障がいをもつプロゴルファーがコースを移動するためにカートを使用できるかどうかが争われた。訴えの根拠となったＡＤＡ法は、公共の施設に障がい者への合理的配慮を求めるが、サービスの性質を根本的に変えてしまう便宜は拒否できる。本裁判では、カートの使用がプロゴルフの本質を変えるか否かが争点となった。　（197 字）

※キーワード

障害をもつアスリート／障がい者アスリート、公平性／不公平、パラリンピック／オリンピック、ＡＤＡ法、合理的配慮、（プロ）ゴルフの本質／〇〇（スポーツ名）の本質

◇《設問２》の論題と評価の視点 ◇

〔論題〕

マーティン対ＰＧＡの裁判において、あなたが裁判官であれば、どのような判決を下しますか？原告（訴えた側）・被告（訴えられた側）の主張を比較したうえで、結論とその理由を 600 字以内にまとめなさい。

〔評価の視点〕

・原告・被告両方の主張に言及しており、結論の理由がおおむね妥当である場合は得点率 60%を基準とします（原告勝訴の場合は、「歩くことはゴルフの本質ではない」「カートの使用はプロゴルフの本質を変えない」、敗訴の場合は、「疲労もトッププロ（ＰＧＡ）の重要な要素」「原告にカートの使用を許可すると不公平」などが考えられます）。
・結論（勝訴・敗訴）を示さない答案は、得点率 40%を基準とします。ただし、理由を十分に示したうえで結論を出せなかった場合はこの限りではありません。
・理由の数、質（説得性・論理性）に応じてプラス評価をおこないます。
・原告・被告の一方の主張のみに言及している場合は得点率 40%を基準とします。
・ルールの解釈のみならず、ルールのあり方や新たな解決法などを示す答案には、大幅な加点をおこないます（例えば、「マーティンにカートの使用を許可するのが不公平だというなら、全員にカートの使用を認めればよい」など）。
・行頭の文字下げや段落分けが不適切な箇所があったり、誤字・脱字がある場合には、一定の減点をおこないます。